

# 音の鳴るコースがつくりたい』 5歳児 6月 伏見こども園

前日の様子 日々変化しながら転がしのコースづくりを楽しんでいる子ども達。振り返りの中で…



音の鳴るコースがつくりたい!

音の鳴るものって…?



楽器や!

これなら音が鳴りそう!



倉庫に音の鳴りそうなものを探しに行き、木琴、鈴、一斗缶などを見つけていました。



ぶら下げてみよう



## エピソード

昨日見つけた音の鳴るものをコースに組み入れてコースづくりが始まりました。「ここに置いたらいい」「もうちょっと高くしないとあかん」と、置く場所や角度を調節していました。鈴をコースの中に入れようとトイに置くと、転がしたものが止まってしまいました。そこで、脚立の脚の段を利用してトイを二段に組み、「ここに鈴があったらいい」と、鈴が鳴るようにマジックテープ付きの紐でぶら下げてみました。できたコースにスーパーボールを転がしてみると、コースの先で跳ねて思ったように音が鳴りません。「スーパーボールは跳ねるからダメや」と、次にビー玉を転がしてみると、木琴の上を転がり、ぶら下げた鈴に当たって音が鳴り「ビー玉は硬いから音が鳴るんや」「ビー玉の方がいい」と気づき、繰り返し転がして音が鳴ることを楽しんだり、コースを組み替えたりして何度も試していました。

## 保育者の思い

- ・「音の鳴るコース」という目的をもち、前日からの期待をもって遊びに向かう姿を大切にしたいと思いました。
- ・コースづくりの土台となるもの(脚立、トイ、板など)を置いておくことで、自分達で見つけた「音の鳴るもの」をどうすればコースの中に取り入れられるか考えたり工夫したりできるようにしました。
- ・目的に向かって自分なりに考えたり、友達と協力したりしてコースをつくる姿が見られたので、見守っていました。
- ・コースの土台だけではなく、転がすボールによっても音の鳴り方に違いが出ることに気付いたことで、いろいろな用具を使い、繰り返し試すことに繋がってほしいと感じました。

## 子どもの育ちや学び

- ・音の鳴るコースという目的に向かって、これまでの経験から必要なものを考えて探したり、組み合わせたりしていました。
- ・音の鳴るものをどこに置いたら音が鳴るか予測しながらコースを組んでいました。
- ・転がすボールによっても音の鳴り方が違うことに気づき、繰り返し試す姿に繋がりました。

## 家庭だったら…

- ・「音の鳴るものって何だろう?」「これはどんな音が鳴るかな」「どう聞こえたかな」など、一緒に考えてみると、生活の中のいろいろな音に興味を広がっていった面白いかもしれませんね♪